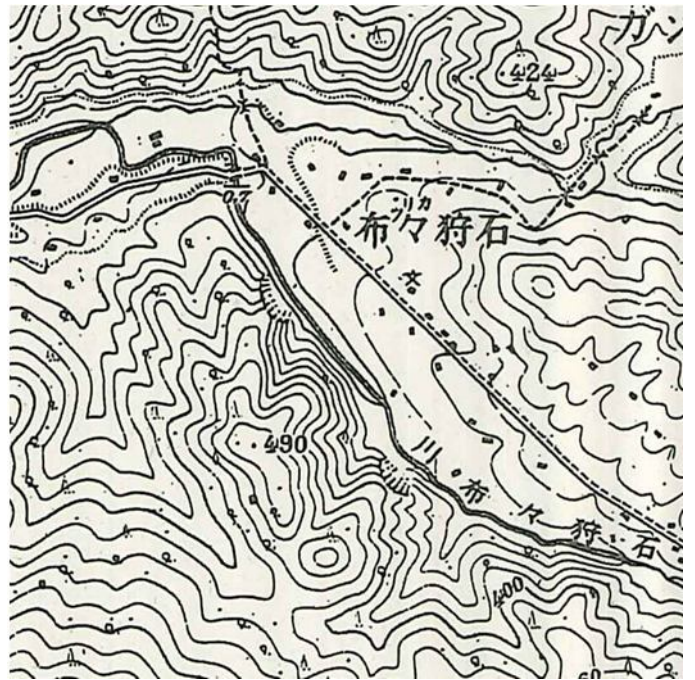


## 「アイヌ語地名を考える(2) ～石狩々布～」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

地形図の読図の入門書に、北海道のアイヌ地名の項目があった。その中に、「石狩々布」という地名の記載があった。「石狩々布」と書いて「いしかりかりっぷ」と読む。実にかわいらしい、というか、アイヌ語らしい詩情豊かな響きを持った地名である。

書物には、残念ながら場所が書いてなかった。「石狩々布」というのだから、石狩川の流域にありそうだと思うので、1:25000の地形図で、石狩川の流域を、かなりつぶさに探した。しかし、どうしてもこの地名は見つからない。インターネットで検索をかけても、この地名についての情報は、ほとんど皆無だった。しかし、少ない情報の中からも、上川郡愛別町(あいべつちょう)の北方に、この地名の存在がわかってきた。



「石狩々布」の記載がある昭和12年測量地形図

単なる地名なのだが、「宝物」を見つけ出したような気分だった。古い表記なので、地名は右から左に読む。たくさん家屋があり、「学校」の記号も見られることから、人の生活があった地域とわかる。川の名前も「石狩々布川」となっているのが面白い。



「狩布川」の地図 途中にダムがある。狩布川にあるダムだが、本流の名をとって「愛別ダム」という。

さっそく、現在の地形図を見ると、「石狩川」の支流の「愛別川」の、そのまた支流に「狩布川」(かりっぷがわ)という川を見つけた。一步近づいたが、「石狩々布」という地名は、どうしても見つからない。

幸い、私の手元には、昭和10年代の1:50000地形図が、全国ほぼすべてが揃っている。その中の「愛別」の地図を開いてみた。「石狩々布」・・・あった!



(上)は同じ範囲の、現在の地形図である。道以外は全部消えている。完全な「廃村」である。(つづく)